

令和4年上越市PTAの未来を考えるシンポジウム — いじめの未然防止のために —

学校、家庭、地域がチームとなり、子どもたちの「いのち」を守る

所属の垣根を越えて「思い」「悩み」を共有する



令和4年10月29日（土）、いじめ問題への関心の喚起、啓発を目的としたシンポジウムを開催しました。同シンポジウムは、上越教育大学いじめ防止支援プロジェクト<BPプロジェクト>の一環として、いじめ防止へ学校と保護者が連携して取り組む機運を高めようと本学いじめ・生徒指導研究センターとこども未来創造プロジェクトが共同で企画・実施し、いじめ問題の現状や予防対策について議論するとともに学校を取り巻く諸問題について参加者と意見交換を行いました。

本学教授でいじめ・生徒指導研究センター長を務める高橋知己が基調講演を行い、いじめの発見が困難である様々な要因を紹介した上で「加害者はいじめを隠そうとするが、被害者も『親や周囲に迷惑をかけたくない』などの思いから誰かに相談することができない」と説明し、子どもたちを守るためには、援助要請しやすい環境をつくること、そのためには、学校、家庭、PTAなどが連携し、いじめの未然防止、早期発見に努めることが重要であると指摘しました。



基調講演終了後は、3つの分科会に分かれワークショップ形式で保護者、学校教員、市議会議員、本学関係者などによる活発な討論が行われました。

最後に各分科会の内容を高橋知己センター長が取りまとめ全体で共有しました。

各分科会のテーマは、以下のとおりです。

第1分科会：「先生と保護者の関係」

先生と保護者の関係は上手に構築されていますか？
保護者にとって、子どもにとって先生とは？
先生にとって保護者とは？

コーディネーター／寺戸 武志
上越教育大学大学院学校教育研究科講師



第2分科会：「PTAは必要なのか？」

あたりまえのようにあった「PTA」
もし、なくなってしまったら...？

コーディネーター／辻村 貴洋
上越教育大学大学院学校教育研究科准教授



第3分科会：「PTA活動の悩みと課題」

役員決めってどうしてる？
積極的な活動協力が得られない...
こんなことに困っているけどPTAに相談しても良い？

コーディネーター／蜂須賀 洋一
上越教育大学大学院学校教育研究科准教授



日時／令和4年10月29日（土）13:30～16:10
会場／上越教育大学講義棟301講義室他
主催／上越教育大学BPプロジェクト
（いじめ・生徒指導研究センター）、
こども未来創造プロジェクト
講演／高橋 知己
上越教育大学大学院学校教育研究科教授
いじめ・生徒指導研究センター長



講演のなかでは「いじめが発見しにくい理由」について、参加者によるグループ討議の時間が設けられ、熱心な意見交換が行われました。

参加者の声

シンポジウム終了後のアンケートでは、様々なご意見・ご感想をいただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

現状のPTA問題について
様々な角度からの意見を
聞けてよかった。

生徒たちへ日常的に何気ない
声掛けを続けていこうと
思った。

分科会での討論をふまえて
地域で学校を支えるという
ことをさらに考えてみたい。

今日の内容を持って帰って
家で話し合いたいと思う。

【担当】

国立大学法人上越教育大学
いじめ・生徒指導研究センター
（事務：研究連携課）
〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地
E-mail：j-rbgc@juen.ac.jp FAX：025-521-3621

